

●背景・課題

- ・ 高齢化が進み、大量の交通弱者が生じる時代が目の前に来ている。買い物や病院など日常生活を維持するには、家族などが負担を背負うか、家の中に籠もりきりにならざるを得ない。
- ・ 交通弱者が日常生活をストレスなく送ることの出来る交通手段を確保することはきわめて重要である。
- ・ 今は車が使えて何とかなっているので切迫感がないが、移動に困っている人の情報を集め可視化するなど現状や今後の見通しを把握し、需要の属性を見定めニーズを掘り起こすことが必要となる。

●目標・方向性

「日常の足の確保」として、一人暮らし高齢者でも使い勝手がよく、金額的にリーズナブルで、行政の負担も許容範囲という持続可能な交通体系を構築する。ニーズ調査に基づき成立可能な「乗りたくなる」ような公共交通システムを検討し、民間事業者の参画により、テスト運行を経て小名浜独自の交通体系として定着を目指す。

●計画内容

★ニーズ調査

- ・ 小名浜地区全域を対象に、行政と連携し、市民アンケート等を実施し、公共交通に関する市民のニーズを詳細に把握する。現状でのニーズだけでなく、今後の高齢化の加速を考慮した場合の「移動」の確保に何が必要かの把握を重視する。
- ・ どのような交通システムなら使われるか、「乗ってみたいくなる仕掛け、工夫」とは何か、を明らかにできるような調査を行う。

★公共交通システムの検討

- ・ ニーズ調査をもとに、小名浜に見合った公共交通システムのあり方、基本的なシステムの形態を検討し、絞り込む。
- ・ 他都市での失敗例も含む事例を研究し、その物真似ではなく小名浜の現状に照らして市民の足として適切かつ実現可能なシステム案を検討する。
- ・ システムの候補として「オンデマンドの乗合タクシー」（岡山県玉野市の事例を参考として）を検討に含める。

※ 岡山県玉野市の「オンデマンドタクシー」の事例を [参考資料編] に示す。

★運行計画案の作成

- ・ 交通事業者の参画を得て、行政との協働により、市民ニーズに即した運行計画を検討し、作成する。
- ・ 運行エリアと想定される行き先、停留所の位置や間隔など、他都市事例も参考に検討し、計画に盛り込む。

★行政・事業者との調整

- ・ 交通事業者と協議し、事業への参画を求める。
- ・ 行政と連携してテスト運行から本格運行へのプログラムを作成する。

★テスト運行

- ・ 行政、事業者と連携してテスト運行の準備を行い、実施にあたって市民に広報を行う。
- ・ 運行実施に必要な法的手続き等を進める。
- ・ テスト運行に必要な車両、停留所、運行システム等を準備する。
- ・ テスト運行を実施し、結果を受け、実用化に向けた課題を抽出する。これにより、本格実施の可否、修正点などを検討し決定する。

★事業実施

- ・ 実用化に当たり、利用者確保のための広報活動を行う。
- ・ 本格運行実施に必要な車両、停留所、運行システム等を準備する。行政が負担する場合は補助金を支給、民間がする場合は事業者が手配する。
- ・ 事業実施に伴う成果や問題点を常に把握し、改善につなげる。

●役割分担・行動

市民会議のアクション	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズ調査、システム検討、運行計画案構築、テスト運行、事業実施等の一連の過程で中心的な役割 ・ 事業者への参画要請、行政との調整 ・ 市民への広報活動による利用促進、問題点・課題の検討等
民間・一般市民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者は、行政、市民会議と連携し、新たな公共交通を運行する実施主体となる。 ・ 市民は新たな公共交通を利用。持続的運用のためにも、「自分たちの公共交通」という意識を持ち、事業に主体的に参画。
行政への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民会議、事業者と共に、構想の立案、調査、事業実施へのすべてに関与。 ・ 必要な財政負担。

●タイムテーブル

実施項目	実施主体			実施時期		
	市民	民間	行政	短期 (～5年後)	中期 (5～10年)	長期 (10年後～)
★ニーズ調査	○			○		
★公共交通システムの検討	○			○		
★運行計画案の作成	○	○	○	○		
★行政・事業者との調整	○	○	○	○		
★テスト運行	○	○	○	○		
★事業実施	○	○			○	

※「市民」＝主に市民会議



グリーンスローモビリティを活用した次世代交通システム実証事業
(令和元年・令和2年 写真提供：いわき市他)